

## 2022年度 卒業式・修了式 学長式辞

はじめに、ご臨席を賜りました、ご来賓の皆様、厚く御礼申し上げます。また今年度は、人数制限のある中ですが、保護者の方々にもご列席いただき、この式典を挙行できることを喜び、感謝する次第です。

改めて、学士・修士の皆様、卒業そして修了おめでとうございます。教職員を代表して、お祝い申し上げます。保護者そしてご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

振り返ってみると、学部卒業生が1年の時は、キャンパスに慣れ、2年生からは大学生活を満喫しようというところで、コロナ禍となりました。修士修了生は入学当初から感染症対策でのキャンパス生活でした。このコロナ禍というパンデミック感染症は、私たちの生活を大きく変えました。

このパンデミックで、全世界の人びとが同時に「閉じこもり」を経験しました。フランスの哲学者：ミッシェル・フーコーは、近代の「理性の歴史」が、浮浪者・犯罪者・狂人たちを病院へ閉じ込めることから始まったと説きました。その文明史は四世紀を経て、世界中の人びとをコロナ禍による「閉じ込め」状態に置きました。この閉じ込めによる社会状態の見直しは、現象学でいう「エポケー：本質的な反省のための停止」といえるかもしれません。

なぜなら、このエポケーという観点から、世界を俯瞰してみると、様々な問題が浮かんでくるからです。すなわち、石油や石炭のような化石燃料の枯渇、台風や竜巻そして平均気温の上昇といった地球環境の異変、鳥インフルエンザやコロナウィルスのような感染症の出現、政治面でも社会保障や医療制度の財源不足、そしてロシアによるウクライナ侵攻に対する国連の安全保障理事会の機能不全などです。

これらの問題は、私たち人類が自らの進歩によって引き起こしてきた点、そしてこのまま放置すれば、人類の持続可能性：サステナビリティを確実に損なう点で共通しています。

また、エポケーに関して、私たちが特に考えなければならないことは、20世紀に大きく進歩した機械化と電力化、そしてスマートフォンの利用などによる情報化の発展です。アメリカの未来学者カール・ワイツは、2045年に人工知能：

AIが人類の知能を超える変換点:シンギュラリティが現れると予測しています。この機械化・電力化・情報化は、私たちの日常生活を便利にしました。しかしながら、この科学技術の発展は、普通の生活だけでは運動不足と栄養過多による不健康という代償をもたらします。コロナ・パンデミックが、この傾向をさらに助長させました。そこで重要になるのが「体育教育」です。今日、サステナブルな健康には、身体運動を理論と実践で支える、教養としての「体育」こそ重要だと断言します。本学の創立者:二階堂トクヨ先生が、100年も前に「女子体育」の重要性を見抜いていたのは、見事という他ありません。

本日ここに、卒業・修了する皆さんは、教員免許・保育士の資格を取得して教育に専念する人、スポーツ選手や芸術家としての活躍をめざす人、そして一般企業への就職を含めて、様々な進路を選択していると思います。ニチジョで学んだことを土台に、スポーツやダンス、教育や企業の現場などで、ニチジョの底力:ニチジョ魂を発揮してください。

最後に、本日の卒業・修了に際し、皆さんを支えてくれた方々への感謝を忘れてはなりません。これからは、ニチジョ OG としての誇りをもち、ジェンダーフリー:女性が増々重視される社会環境を追い風に、活躍し輝くことを期待しています。

以上、卒業生・修了生へのお祝いと願いをこめて、学長式辞といたします。

2023年3月15日

日本女子体育大学  
学長 深代 千之